

## Q & A : 博士前期課程入学試験について

### 1 英語スコアについて

- 1.1 Q: 英語のスコアは必ず提出しなければならないのですか。  
A: 英語のスコアは、博士前期課程入試の出願者全員が提出しなければならない必須の書類です。スコアが提出されない場合は、出願資格なしと判断されることとなります。
- 1.2 Q: 大学で英語の授業を受けましたが、英語スコアを免除してもらえますか。  
A: 英語スコアは、博士前期課程入試を出願する全員が提出しなければならない必須の書類です。アメリカ合衆国やイギリスなどの英語圏で学士号を取得した場合であっても同様です。英語スコアの免除はありません。
- 1.3 Q: 出願までに英語能力試験のスコアが間に合わないのですが、どうしたら良いでしょうか。  
A: 比較的早く試験結果が手に入る英語試験の受験を勧めます。
- 1.4 Q: TOEFL iBT の "Best score" の提出は認められていますか。  
A: TOEFL iBT で提供されている MyBest Scores は、評価の対象にしておりません。受験した試験の総合点 (Total Score) で評価します。
- 1.5 Q: 英語能力試験の結果は、Overall で基準を超えればよいのか、それぞれのスキル (ex. speaking, listening) ごとに全てが基準の点数を超えなければなりませんか。  
A: 技能別のスコアではなく、総合点 (Overall) のスコアで判断します。
- 1.6 Q: 英語試験結果は実施主体から直接名古屋大学に送ることは可能ですか。  
A: 実施主体から直接送らず、出願者自身がスコアを PDF やスクリーンショットに保存して電子ファイルでメール添付により送付してください。
- 1.7 Q: 英語能力試験それぞれのスコアレベルを教えてください。  
A: 出願要項の 4 ページの表を参照して下さい。この表で示しているのは最低基準です。この基準を満たさないと、出願できません。
- 1.8 Q: 英語能力試験のスコアは高ければ高いほど合格の可能性が高くなるということでしょうか。  
A: 可否については、出願者の能力を様々な角度から総合判断致します。英語能力も重要な要素です。そのため、英語能力試験を複数回受験している場合は、総合点で高い得点のスコアを提出することをお勧めします。

## 2 推薦書について

- 2.1 Q: 推薦書について、宛名はどちらにすべきでしょうか。
- A: 推薦書の提出は任意です。推薦書がなくても出願できます。推薦書は、「名古屋大学大学院国際開発研究科」宛として下さい。郵送先は、募集要項の最後のページを参照ください。
- 2.2 Q: 推薦書に書式指定はありますか。
- A: 書式の指定はありません。ただ、推薦者が所属する大学等の機関のレターヘッド付き用紙が望ましいです。
- 2.3 Q: 推薦書を書くのは現在のゼミでの担当指導教員でよいのですか。それとも学部長や学部の上長でなくてはいけないですか。
- A: 推薦書の執筆を誰に依頼するかについては、被推薦者（出願者）の判断にお任せします。学部長や研究科長である必要はありません。むしろ、出願者のことをよく知っている方、特に指導教員に依頼する方が望ましいでしょう。
- 2.4 Q: 推薦書は他の書類と同封して提出するのでしょうか。それとも直接提出したほうがよいのでしょうか。
- A: 推薦書は、推薦者が直接、GSIDの入試担当まで郵送または電子メールに添付して送付下さってもかまいません。ただし、出願者が他の書類と同封し一括して送付下さるほうが、良いと考えています。GSIDにおける処理の段階で問題が発生しにくいからです。なお、出願者が提出する場合は、紙媒体の郵送に限ります。

## 3 研究計画書について

- 3.1 Q: 研究計画書 4000 字には参考文献の文字数は含まないという認識でよろしいでしょうか。
- A: 参考文献や脚注/文末注、図表などは文字数に含めません。ただし、研究題目及び副題は含めます。
- 3.2 Q: 制限字数をオーバーしても良いのでしょうか。
- A: 所定の字数を超えた場合、超過字数に応じて減点されます。
- 3.3 Q: 提出する研究計画は、最終的なもので変更できないのでしょうか。それとも、学習期間中に変更することは可能なのでしょうか。
- A: 出願時に提出した研究計画書は予定で結構です。指導教員と相談のうえ、変更することは可能です。

#### 4 その他提出書類について

- 4.1 Q: 出身大学の証明書類が、電子版でしか発行されず、紙媒体がありません。  
A: その場合は、電子メールにより出身大学の担当者から直接提出しても構いません。また、紙媒体による証明書類の提出は不要です。

#### 5 第1期試験（9月）と第2期試験（1月）について

- 5.1 Q: 9月と1月の試験の違いや取り扱いの違い、所属できる研究室の違いはあるのでしょうか。  
A: 1月試験の詳細は、まだ確定しておりません。現時点では、9月試験と同様の方式で行う予定です。10月頃発表の第2期試験（1月実施）に関する募集要項をご覧ください。受験した試験によって、入学後の取り扱いが異なることはありません。
- 5.2 Q: 万一、9月の第1期試験が不合格であった場合、第2期試験を受験することは出来るのでしょうか。  
A: 第2期試験（1月）は、GSIDへの入学を希望する人であれば誰でも出願できます。万一、第1期の試験が不合格となった人も、第2期の試験を受験できます。ただし、再度、受験料を支払わなければなりません。

#### 6 面接について

- 6.1 Q: 面接の言語について教えてください。  
A: 日本語又は英語で行われます。基本的には、日本語で研究計画を提出した者に対しては日本語で、英語で提出した者に対しては英語で行われます。言語に関する希望があれば、面接の際初めにお知らせ下さい。日本語で受験する場合でも、英語で質問が少し行われます。英語で回答できるよう準備して下さい。
- 6.2 Q: 面接の際に日本語を選んだことで英語選択者よりも面接での印象が悪くなるといったことはありますか。  
A: 面接の際の言語によって差別することはありません。

#### 7 指導教員について

- 7.1 Q: 出願の前に、研究計画に関して、GSIDの教員からアドバイスをもらうべきでしょうか。  
A: 博士前期課程の場合、GSIDの教員から入学後の指導に関する同意をもらう必要はありません。GSIDの教員に研究計画について相談をすることは可能です。しかし、GSIDの教員から必ず返事がもらえるとは期待しないでください。